

栗色娘

- 1 「わたしは栗色娘
目はリンボクの実のように真っ黒で
きびきび いつも元気がよくて
森の雌鹿のように気ままな娘
- 2 「恋人は背が高く 誇り高くて
お金もたくさんありました
恋人は別の色白娘を選び
わたしを捨てて行きました
- 3 「恋人はわたしに手紙を寄こし
行った町から送って寄こし
もうおまえを愛していない
おまえがあんまり栗色だから と言うのです
- 4 「わたしは手紙を送り返して
あなたの愛などどうでもいいわ
わたしを好こうと好くまいと
そんなことなど知ったこと と言いました
- 5 「日が過ぎて
六ヶ月が経ったころ
あんなに元気だった恋人が
床について うめいています
- 6 「日が過ぎて
六ヶ月が経ったころ
あんなに元気だった恋人が
恋にやつれて 病の床です
- 7 「最初は 医者を呼んで
お医者さん 治してください
こんなに苦しい痛みには
もうこれ以上耐えられない と訴えたそう
- 8 「こんどは わたしを呼びました
町からわたしに人を寄越して
奥さんになれたはずの このわたし
栗色のわたしを呼びました

9

「医者ではどうにも
あの苦しみは解かれない
栗色娘だけにしか
彼の命は救えない と言うのです」

10

哀れにも恋やつれた恋人に
栗色娘がいだいた気持ちをお話しましょう
ある夏の日のことでした
娘は歩いて ゆっくりゆっくり行きました

11

恋人の寢床のそばにやって来て
弱り果て 重い病の寢床のそばで
娘はげらげら大笑い
立っててもできないほどに

12

「よくもわたしを馬鹿にしたわね
わたしのほかにも多くの女を
とうとう これが報いな
今までにしてきたことの全部の報いよ」

13

娘は指輪を
二つ三つとはずしながら言いました
「金の指輪はお返しします
手元において わたしのことを思い出して」

14

女は白い杖を手にとって
男の胸を撫でました
「愛の誓いはお返します
やすらかに おやすみなさい」

15

「ああ どうか
忘れておくれ 赦ゆるしておくれ
もうしばらくの間だけでも
ぼくを元気にしておくれ」

16

「生きてるかぎり
忘れることも 赦ゆるすこともありません
青草茂るお墓の上で踊ってあげます
その下で やすらかにおやすみなさい」